

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第2区分

【発行日】平成28年10月13日(2016.10.13)

【公開番号】特開2016-26887(P2016-26887A)

【公開日】平成28年2月18日(2016.2.18)

【年通号数】公開・登録公報2016-011

【出願番号】特願2015-190386(P2015-190386)

【国際特許分類】

B 21 J 5/00 (2006.01)

B 21 J 1/04 (2006.01)

【F I】

B 21 J 5/00 D

B 21 J 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月24日(2016.6.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

マグネシウム合金による丸棒であって、

結晶組織内に変形双晶が形成されるとともに、長手方向に垂直な断面による結晶方位分布において結晶方位(0001)が主要な方向となっていることを特徴とするマグネシウム合金製丸棒。

【請求項2】

前記マグネシウム合金は、AZ系マグネシウム合金であり、前記丸棒の長手方向における引張試験によって、最大引張強度が400MPaを超え、かつ降伏応力が250MPa以上である請求項1に記載のマグネシウム合金製丸棒。

【請求項3】

マグネシウム合金による棒状、板状、ブロック状、ペレット状または管状の材料であり、側面を拘束した状態で所定方向にのみ圧縮荷重が印加されたものであって、

結晶組織内に変形双晶が形成されるとともに、前記圧縮荷重が印加された方向に垂直な断面による結晶方位分布において結晶方位(0001)が主要な方向となっていることを特徴とするマグネシウム合金製材料。

【請求項4】

前記マグネシウム合金が、AZ系マグネシウム合金、希土類元素添加マグネシウム合金、Ca添加マグネシウム合金のいずれかである請求項3に記載のマグネシウム合金製材料。

。

【請求項5】

前記マグネシウム合金は、AZ系マグネシウム合金であり、前記引張荷重が作用する方向における引張試験によって、最大引張強度が400MPaを超え、かつ降伏応力が250MPa以上である請求項3に記載のマグネシウム合金製材料。